

## 一般社団法人長浜青年会議所 2016年度 事業報告書

### 総括概要

本年度、第61代理事長 伊藤和真理事長のもと

基本方針 「一志挑戦」

勇気ある心と 自由な精神を尊び

失敗を怖れず 挑戦する青年として輝き

仲間とともに 湖北の未来を創ろう

運営方針

○変化なくして成長なし 自らと地域に新しい風を起こそう

○湖北都市圏創造構想の具体化に向け、総力を上げて取り組もう

○強い意志と実行力をもった集団として、地域に活動を展開しよう

○互いの挑戦と成長を讃え合う友情を育もう

を掲げ、一般社団法人長浜青年会議所「湖北都市圏創造構想」の2年目として、構想の実現に向け、湖北に多くの人が集まり持続的発展を目指した活動のステップアップを展開致しました。そして「一志挑戦」のもと、メンバーがしっかりとした目的意識をもって活動し、新たな事に挑戦する事で湖北に新しい風を吹き込む事ができた1年となりました。

## 重点事業報告

### 湖北都市圏創造構想推進事業

#### Vision16創出委員会

「未来への挑戦!未来を切り開くのは君だ!満点に輝く星の下で」



7月30日(土)、31日(日)に甲津原の地にて湖北都市圏創造構想推進事業「未来への挑戦!未来を切り開くのは君だ!～満点に輝く星の下で～」を1泊2日で開催し、湖北の子ども達51名にVision16の教育プログラムを経験していただきました。

1泊2日事業初日は起業家、教育関係者の意見を取り入れ、考えてきたVision16の教育プログラムに則りグループに分かれ新聞づくりの為、甲津原の皆さんの全面協力のもと地域の家々を回り、甲津原について学び、記事のネタを調査しました。

最初はみんな手さぐり状態でどういう風に地域の魅力を伝えたらいいのか、未来へ繋げていくにはこの魅力をどう生かしたらいいのかわかりませんでしたが、本物の新聞記者さんに新聞づくりの講義を受け、実際に指導していただき、修正することですべての班が見違えるほど良い出来栄の新聞を作る事が出来ました。

2日目午後から行われた甲津原未来新聞と題した発表記者会見では、米原、長浜の両市長や保護者の方やご協力いただいた地元甲津原の皆さんや関係者の方々な

ど多くの大人が見ている中で、本物の新聞記者の方から記者会見を受け、みんな堂々と自分たちで作成した新聞について発表しました。

Vision16創出委員会が中心となり、アントレプレナーシップを軸にVision16の教育プログラム確立の為に、この日まで有識者の方、専門家の方と多くの議論を重ねてきた成果が実を結び、社会に触れさせる体験をすることで関心を持ち、能動的に行動する子どもたちの成長を目の当たりにする事が出来た事で、地域の大人達にもVision16の教育プログラムの必要性を感じていただける事業となりました。

### 湖北都市圏創造構想推進事業

#### LOVE FOR KOHOKU 2016実行委員会設立

本年度は市民の活力を集め地域一体となって湖北のシンボルとなる湖北八景を創出する運動の推進を運営大綱に掲げ、そして地域の方と共に湖北に数多くある都市の記憶の中から58か所を抽出し、多くの有識者の方々と共に湖北八景に相応しいものを議論してきました。景観の良さだけでなく文化や歴史、自然の素晴らしさ、人々の活力、内外の人を呼び込むことのできるものである必要があると考え、都市の記憶の調査を進めてきました。

そこで、一般社団法人長浜青年会議所が起点となり行政、諸団体を始め総勢121名の参画者が一体となって取り組める湖北のシンボル創出につながる事業についての主体的な意見交換や、運営と事業後の検証についての場を設け、共有財産となり得る都市の記憶を活かした事業の実施に向けた実行委員会を設立しました。

実行委員会を設立したことで、私たちが中心となり湖北八景創出運動を進めていくための新たな賛同者を拡充することが出来、共有財産となり得る都市の記憶を活かした事業の実施に向け多くの方に賛同をいただく事が出来ました。

## 湖北都市圏創造構想推進事業

### LOVE FOR KOHOKU2016

#### ～コホクノイイトコイッパイ～

湖北のシンボルを創出していくには、共有財産となり得る都市の記憶を活かした事業の中で地域の活力を高めて湖北に対する内外の羨望を集め、市民の方々にその可能性の大きさを感じていただくことが必要と考え、9月24日(土)湖北都市圏創造構想推進事業「LOVE FOR KOHOKU2016～コホクノイイトコイッパイ～」を長浜豊公園で開催し、一般来場者3000名を超える多くの皆様にご来場頂きました。

事業を通し、湖北の都市の記憶とそこに住まう人々の魅力を再認識し、自分達の地域に対する誇りと地域を何とか盛り上げたいという行動力を高めていく事で湖北のシンボル創出に繋げると共に、湖北外から訪れた人々には都市の記憶に対する注目を集める事で湖北地域の魅力を大きく発信する事が出来ました。

朝早くからスタートした自転車のロングライドでは150km、90kmのコースに分かれ127名のライダーの皆さんに湖北の素晴らしさを存分に味わっていただく事が出来ました。15時から開催した豊公園会場でのステージでは湖北を拠点とするグループやアーティストの方々に会場を盛り上げていただき、約一時間以上の行列が出来た巨大迷路は湖北の素晴らしい景観をキャラクターになぞらえた8マン(ハッチマン)のスタンプラリーを体験していただき皆さんに楽しみながら湖北の素晴らしさを発信する事が出来ました。

湖北の美味しい食の魅力を集めた飲食ブースも大変賑わい、一日を通して来場者が湖北の魅力をいっぱい感じる事の出来る事業になりました。

事業で行ったアンケートでは都市の記憶に対する市民の声を集め、58か所あった湖北八景の候補地といえる景観を、事業後の有識者との会議で協議の上、候補地を16箇所絞りこみ今後の運動へと繋げる事が出来ました。また、地域の活力を高める為に行政や諸団体、自治会等へお願いし、様々な形で協力を頂いた事で、湖北八景という新たなシンボルを創り上げていく運動を地域の方々と共に進めていく事が出来ました。



## 湖北都市圏創造構想推進事業

### 湖北のランドデザイン創出プロジェクト

#### ～びわ湖に触れるまち湖北の実現へ～

8月27日(土)長浜ヤンマーミュージアムにて湖北都市圏創造構想推進事業【湖北のランドデザイン創出プロジェクト～びわ湖に触れるまち湖北の実現へ～】が湖北ランドデザイン創出委員会主管のもと開催されました。

長浜市長や県内外からの有識者に加え一般市民の方も含め総勢150名の方々に参加していただきこの湖北が選択される都市となるためには何が必要なのか、我々の共有

財産である琵琶湖を通じて、同じ湖北である長浜・米原が連携し湖北の魅力を最大限に活かす施策を議論しました。

第1部では湖北ランドデザイン創出委員会が今迄に調査してきたことをもとに琵琶湖の魅力を活かしたランドデザインについて発信致しました。

続く第2部ではよりその総合研究所の藤原明氏をコーディネーターに迎え湖北外の有識者や各行政関係者の方々7名と伊藤理事長が第1部の発表を受けて湖北地域が既存の枠を超えて継続的な成長を遂げるためには何が必要であるのかをディスカッション形式で行いました。

更に最後の第3部では第1部、第2部を受けて一般の方々に質問していただき市民の声を我々の思いとして有識者の方々や市の関係者に投げかけさせていただきました。

我々長浜青年会議所でしか出来ない大胆な切り口の発想を市民の方々や有識者、市の関係者に投げかけた事で今後、両市が連携を取り合っ魅力溢れるランドデザイン構築にむけ取り組んで行く事に繋がる事業となりました。



## 会員旅行

### ～心技体で高まる友情の旅 ぞすこい!!大阪春場所～

3月19日(土)20日(日)、会員旅行「心技体で高まる友情の旅 ぞすこい!!大阪春場所」が大阪の地にて開催されました。茨木市萩谷運動公園にある本格的な土俵の上で行った委員会対抗相撲大会から始まり、その後には本物の大相撲である大阪春場所を観戦し、日本の国技であり神事とされてきた相撲から伝統や個の精神を学びました。夜の懇親会ではちゃんこ鍋をいただきながら新喜劇風の余興などで融和の深められる懇親会となりました。

2日目は大阪新世界にて「チームで乗り切れ!食い倒れるな!イン新世界」と題した委員会対抗のゲームを行い、街なかに仕込まれた様々なミッションを協力しながらクリアしていった事で仲間との絆を深める事が出来ました。その後はスパワールドにて仲間と共に汗を洗い流し2日間の思い出を語り合った事で、会員相互が深い友情を育み、結束力を強める大変有意義な旅行となりました。



## ASPAC高雄大会ブース出展

6月2日から6月5日にかけて台湾の高雄でASPAC（アジア太平洋地域会議）が開催され、アジア中の青年会議所メンバーが多数集結しました。

6月4日には、高雄国際コンベンションセンターで日本青年会議所主催のジャパンナイトが開かれ、長浜青年会議所もブース出展をしました。ブースでは、長浜の観光ガイドと長浜が誇る酒蔵、佐藤酒造の日本酒をアジア各地から来た青年会議所メンバーにPRしたところ、たくさんの来場者が興味を持っていただき、SAKE人気の高さを実感するとともに、アジア各地のメンバーとの交流で大きな刺激を受けました。

また同夜には、伊藤理事長をはじめとする訪台した長浜青年会議所メンバーによるLOMナイトが開催され、ASPACに深く関わっている公益社団法人日本青年会議所JCI関係委員会に出向している大澤剛人君をメンバー一同で激励しました。海外の地にも関わらず多くのメンバーが駆けつけ、長浜青年会議所の結束力の強さを感じた一夜となりました。



## 6月公式訪問例会

### 滋賀ブロック協議会公式訪問懇談会・懇親会

6月8日（水）北ビワコホテルグラツィエにて公益社団法人日本青年会議所近畿地区滋賀ブロック協議会役員団の皆様をお招きし長浜青年会議所6月公式訪問例会並びに滋賀ブロック協議会公式訪問懇談会が盛大に開催されました。

冒頭、滋賀ブロック役員団及び長浜青年会議所役員紹介に引き続き、八田会長の挨拶から始まり、日本青年会議所及び滋賀ブロック役員団の活動について説明を拝聴する大変貴重な機会となりました。そして長浜青年会議所 伊藤理事長から2016年度の長浜青年会議所の基本方針説明があり湖北都市圏創造構想に基づき各委員会が担っている役割を滋賀ブロック役員団の皆様にご説明させていただきました。

続く懇談会では「滋賀ブロック×長浜JC ガチンコサミット2016」と称した意見交換会を行い、各委員長が会場中央に設置された演台に向かい合わせになり、お互いの活動についての質疑応答をさせていただき、青年会議所らしい熱い議論を交わしそれぞれの委員長の情熱を参加者の方々に感じていただく有意義な懇談会となりました。

例会後の滋賀ブロック協議会役員団の皆様との懇親会では滋賀ブロック役員団の方々に歓迎し長浜青年会議所の意気込みを表現したオープニングの舞から始まり、滋賀という同じ故郷を思う同志と共に膝を突き合わせながら滋賀の明るい未来について大いに語り合いました。



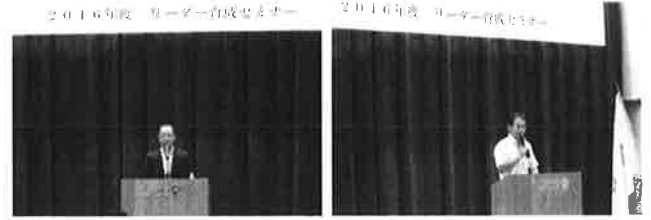
## リーダー育成セミナー

6月28日（火）、8月22日（月）、9月26日（月）の3回に分け、ながはま市民交流センターにて新入会員指導委員会主催でリーダー育成セミナーが開催されました。

入会3年目までの経験の浅いメンバー中心に第53代理事長 村田寿郎先輩、第54代理事長 伏木与司広先輩、第50代理事長 鳥居憲治先輩、第51代理事長 畑澤寿和先輩、第46代理事長 中村浩敏先輩をお招きして青年会議所時代の経験を通して感じたことについてそれぞれテーマを設けてご講演いただきました。

講演の後は参加者全員によるディスカッションを行い、まだまだ経験の浅い若いメンバーにとって大変貴重で得るものが多い事業となりました。

経験豊富な先輩方のご講演とその後の入会の浅いメンバー中心のディスカッションにより若いメンバーにとって大変有意義なセミナーとなりました。このセミナーから得た事を糧にして今後の長浜の未来を担っていく若者が登場してくれることに期待します。



## 近畿地区大会茨木大会

### KINCHIKUバル ブース出展

7月9日（土）大阪府茨木で近畿地区大会茨木大会KINCHIKUバルに長浜青年会議所からブース出展を致しました。近畿中から各地域の名物を一堂に集められたKINCHIKUバルで全国でも話題になっている湖北のソウルフード、サラダパンをブース出展し、長浜・米原観光マップも一緒にお渡しし、近畿の皆様へ湖北の魅力をお知らせさせていただきました。



## 2016家族会～夏の思い出大作戦～

8月7日（日）会員交流委員会主管のもとグリーンパーク山東にて「2016家族会～夏の思い出大作戦～」が開催されました。午前中は「目指せ！虫取りキング」と題し、ポイント制のカブトムシやクワガタの昆虫採集を行いました。昼食のバーベキューや、午後には等身大のピタゴラ装置作りを行い親子での協働作業を行いました。日頃は仕事やJC活動で忙しくしているメンバーも父親の顔になってお子様や奥様と団らんの時間を楽しみました。



## 経営者研修事業

### 経営者の俯瞰力が企業を変える!

#### ～伝えたい鳥と虫のVisual Point～

10月1日(土) 経営者研修事業「経営者の俯瞰力が企業を変える!～伝えたい鳥と虫のVisual Point～」が開催されました。

第1部の経営者研修委員会によるプレゼンテーションに引き続き、第2部では講師として、滋賀県中小企業同好会で「滋賀で一番大切にしたい会社」にも認定される株式会社シンコーメタリコン代表取締役社長 立石豊氏をお迎えして、自社を取り巻く環境を鳥のように高く広い視点からその変化を敏感に感じとる力と、社員に最大限の能力を発揮させる虫のように低い視点からの確に人の人間性を見抜く力、両方を併せ持つ俯瞰力の大切さについてご講演いただき、社員満足度86%を達成されておられる氏の興味深い様々な取り組みに当青年会議所会員も熱心に聞き入っていました。

続く第3部、第4部では、メンバーがそれぞれの業種別に分かれ各自の自社を取り巻く環境を把握することで、その必要性を学ぶことのできる「pest分析」を行い、また、一対一の会話の中から性格によるタイプを分析し、相手の能力を最大限に発揮できるコミュニケーションを学ぶ「タイプ分け」を行いました。

今回、二つの視点を徹底的に学んだ事で、様々な社会変化にも柔軟に対応できる企業戦略を打ち出し、それに向けて邁進していける組織を伴った強い企業を作り上げることの出来る俯瞰力の必要性を感じる事の出来る事業となりました。



## 会員拡大セミナー

10月11日(火)、近年全国の青年会議所会員の減少が進み、我々長浜青年会議所もこのままでは数年後には大幅減少が予想されるという危機感を組織全体で認識し、全員が熱意を持って会員拡大に取り組んで行く為に2013年度日本青年会議所拡大委員会の委員長を務められた杉浦卓君をお招きし、会員拡大セミナーを開催しました。

第1部の講話では全国各地で会員拡大の支援や講演などの活動を行ってこられた経験を元に、会員拡大に必要なメンバーの素養についてお話し頂いた事で、会員一人ひとりが会員拡大の重要性を学び、続く第2部では「拡大成功の秘訣について」をテーマに、杉浦君と清水委員長によるディスカッションを行う事で会員拡大についての細かな注意点や要点などを確認する事が出来、会員一人ひとりが会員拡大の重要性を学び、意思の統一を図ることが出来ました。



## 2016年度FTセミナー

### 行動で示せ!頂きまでの挑戦!

11月3日(木) 新入会員指導委員会による事業「2016年度FTセミナー 行動で示せ!頂きまでの挑戦!」が開催され約50人の長浜青年会議所メンバーで湖北を一望できる伊吹山登山をしてきました。

1年間事業に参加してきた新入会員が自分たちで事業計画や事前準備を行い今後長浜青年会議所を担っていく長浜青年会議所会員となるための経験を積むトレーニングも兼ねて本事業を開催しました。

11月の登山という事もあり大変過酷な内容でしたが事

前準備で何回も伊吹山に登ってくれていた新入会員が率先して旗振り役を担いメンバーをリードしてくれたのが印象的でした。3合目と頂上では事前に調べた湖北や伊吹山についての発表も行われ、本当にしっかりと一丸となって準備していたという事が良くわかる内容でした。山頂はあいにくの天気で湖北を一望する事は出来ませんでしたが、滋賀県で一番高く、毎日見ている伊吹山に登り切ったという達成感に包まれ非常に有意義な一日となりました。

下山後は一日を振り返り事業のまとめの発表と各新入会員の感想と今後の抱負をきく「青春の居酒屋」が開催され事業を達成した喜びを共に伊吹山に登り切った仲間と分かち合いました。



## 褒賞申請

褒賞特別委員会として、一般社団法人長浜青年会議所が行ってきた事業や活動の整理、検証を行い、申請活動を通じて私達の運動を広くわかりやすく発信する事を目的としての褒賞申請を行いました。

滋賀ブロック協議会に、2015年度の、「Love for Kohoku 2015 ～ツール・ド・湖北 まわって・きて・みて・みんなで創ろう湖北八景～」を申請しました。創立60周年を機に新たに策定した構想における運動方針の一つである「湖北の人々の活力を集め、シンボルを創り上げよう」という考え方のもと、ツールドという手法を使って、湖北八景を巡り、そのすばらしさを体感してもらい、湖北八景の意義を広く伝えるための運動を整理・検証し申請しました。行政・湖北各地域を巻き込んで湖北のシンボル創出に向かう一連の運動と、湖北広域を巻き込む長浜青年会議所のパワーを大きく示す申請をしたことで、準グランプリを獲得することができました。

また、JCI Award 2016の長期的地域社会開発プログラム部門及び公益社団法人日本青年会議所の青少年育成部門に「創立60周年記念 湖北都市圏創造構想推進事業『子ども未来プロジェクト』～未来へのカギを見つけだせ!!～」(英語名「Children's future project ~ Find the key to the future ~」)を申請しました。本事業は、創立60周年を機に新たに策定した運動方針の一つである「Vision16 社会を創造する人材を育成しよう」という考え方のもと開催しました。そして様々な職業体験から自らの将来、そして地域の未来を考え、それを具現化させて子ども達に社会的視野の広がりと探究心を与え、この教育の必要性を地域に投げかけるための一連の運動を整理・検証し申請しました。残念ながら受賞には至りませんでしたが、教育行政の関係者を中心に地域を巻き込み、Vision16の必要性を事業で十分に表現するとともに、長浜市・米原市の校長会や教頭会でプレゼンテーションを行なうなどの一連の運動を広く発信することが出来ました。

総務広報委員会の活動として、第6回近畿地区版人間力大賞に湖北で地域貢献活動を行う「愛郷心に溢れる人間力ある人材」として、渡邊嘉久氏、藤岡健二氏の2名を申請しました。残念ながら最終選考会に残ることは出来ませんでしたでしたが、申請者と交流を重ね、その活動や思いを理解し申請書を作成したことで、両者の愛郷心に溢れる活動を近畿に広く発信することが出来ました。

